

クラス番号	212	ゼミタイプ	地域研究型
		担当教員名	野崎孝志
テーマ	「まちの問題（課題）」をテーマに政策形成のプロセスを学び、政策提案を行う		

## ゼミナール概要

### 【ゼミのねらい】

2000年（平成12年）4月に地方分権一括法が施行され、地方分権の扉が開きました。地域の行政は地域の住民が自ら決定し（自己決定）、その責任も自らが負う（自己責任）という行政システムを築くための枠組みが整いました。また、2014年（平成26年）11月には、地方創生の取組を進めるため、「まち・ひと・しごと創生法」が施行され、地域特有の資源を活用し地域力を高めながら、誰もが安心して暮らせる時代のニーズに即した独自のまちづくりと地域活性化による「活力のあるまちの創生」を目指すことになりました。このような中、公務員をめざす皆さんが積極的に自主自立した地域づくりの主体としての役割を担っていくことが求められています。そのためには、住民の視点に基づいた個性豊かで活力に満ちた地域社会の実現をめざし、一人ひとりが政策形成能力を向上させることが重要であり、本ゼミでは政策形成能力の習得を目指します。

### 【授業計画・内容】

公務員としての重要なスキルとなる「政策形成能力」の必要性を学び、自らの考え方を整理し、まちづくりについて、その対応のあり方を学びます。政策形成能力の講義では、まず、政策形成プロセスを学んだ後、近隣自治体の課題を用いてそのプロセスを体験します。課題解決を図るプロセス、考え方は、今後様々な公私の場面で活かせると思います。その結果を用いて政策発表会を行い、課題を抽出した自治体の職員等の前での発表会を実施します。本演習では課題発見に必要なスキルとし、身近なテーマからブレインストーミング法、KJ法、特性要因図等を使い、さらに同手法を用いて解決策を導いていきます。また、ファシリテーション能力も併せて習得していきます。

### 【到達目標】

- ① 地方分権が進展する中、住民に最も近い自治体である市町での地域課題の解決に向けた的確な政策を展開していくために、政策形成の基礎能力の取得を図ります。
- ② 政策形成に関わる自治体やその他、各種団体等との意見交換やグループ作業を経験することにより、コミュニケーション能力の向上を図るとともに、共同して作業するファシリテーション能力や総合的に政策を検討する能力の向上を図ります。
- ③ 成果発表会において研究の成果を発表し総括するとともに、プレゼンテーション能力の養成を図ります。

### 担当教員からのメッセージ



本ゼミは将来公務員になりたいと考えている学生を対象とします。エントリーシートには、志望理由や、なぜ公務員になりたいかを必ず記入してください。公務員は枠の中に留まることなく、『住民の視点』に立つことが大切です。この『住民の視点』というのは、学生としての住民（一個人）として、「あ〜すみにくいなあ」「あ〜なんてこういうサービスしてくれへんのやろ」「こうしたらもっとまちがよくなるのになあ〜」など、役所に対して思うことや、こうしたらもっとまちが、安全に、または衛生的に、健康に、便利に、楽しく、快適になるということと共に考えていきたいと思っています。なお、休暇中に近隣自治体へ「まちの問題（課題）」をヒアリングし、合宿等でワークショップを行いますので、留意してください。本ゼミは社会人としてのマナーも学びます。遅刻、欠席がないようにしましょう。とにかく「授業は楽しいことが一番」、共に楽しみましょう。